



【第46号】
発行所
編集发行人
大分県・日田・中津江村
川津一人

林業構造改善

林業の新しい道

本村は初年度に指定を受ける

第四六通常国会で制定された林業構造改善(林業基本法)は、経済成長政策のヒズミとなつた林業を是正し、他産業従事者と均衡した生活を営みうよう、林業の進むべき新たな道を示したものである。
本県では、南海部郡直川村と本村が初年度の構造改善の指定を受け、全国九二町村の一つに数えられている。



▼林業を他産業なみに▲
現在の林業経営状態は、規模が小さくしかも経営構造がもろい。したがって資本関係にもとづいて、(林業のみで文化生活を営める者はわずかである)労働力は都市産業に流れ、林業の就業人口も減少の一途をたどり、経済の高度成長によるヒズミは、大きく生じています。このような情勢がゆえに、この基本法の目的とすると、国民経済の成長発展と、社会生活の進歩向上に即応して、林業の自然的経済的社会的制約による不利を補正し、林業生産の増大を期するとともに、他産業との格差が是正されるように、林業の生産性を向上し、安定的な発展をはかる。また林業従事者の所得を増大して、その経済的、社会的地位の向上をはかること。
つまり林業従事者の所得を向上させ、他産業の従事者と同じにすることを期している。

▼示された林業の進路▲
このようにとり残された林業を是正し、林業のこころの進むべき道として、
1、林産物の需要の動向に即応するように、林業生産を転換するなど、林野の林業的利用の高度化をはかる。
2、林業経営の規模などにより、林地の集団化機械化、小規模林業の経営を拡大する。林地保有の合理化や林業経営の近代化(林業構造の改善)をはかる。
3、林業技術の向上をはかる。
4、林産物の需給および価格の安定ならびに流通、加工の合理化をはかる。
5、近代的な林業経営を担当し、林業技術に従事するにふさわしい者の養成、確保をはかる。
6、林業労働に従事する者の福祉の向上、養成および確保をはかる。と示され基本法の骨格をなしている。

▼林業近代化と構造改善▲
では林業構造改善はどのようにして行なうかは、まず林業生産の向上する方法として、林野の林業的利用の高度化をはかるために、林野資源の基本計画や重要な林産物の需要供給に関する長期の見とおしをたてて、これによつて林道の開設、林業生産の基盤整備や開発、拡大、優良種苗の確保、樹種や林相の改良造林を推進、機械の導入を行なう。また経営基盤の整備のために、入会野林の権利関係を近代化し、分収造林の促進、国有林野の活用、協業体の組織化などがあげられている。
このような主旨のもとに本年度から地域の指定を行なう。(本村は初年度に指定を受ける)この事業を実施するにはいろいろ条件を具備しなければなりません。指定を受けると、国の助成をうけて三ヶ年で事業を実施することになります。

広報ごよみ

- 11月 1日 灯台記念日 鳥獣狩猟解禁
- 3日 文化の日
- 11日 第1次世界大戦休戦記念日
- 15日 商工会小口融資受付 (12月15日迄)
- 22日 産業祭
- 23日 産業祭 労働感謝の日
- 26日 火災予防週間 (12月2日まで)
- 12月 1日 映画の日、鉄の記念日 妊婦相談(役場)
- 4日 人権週間(10日まで)
- 10日 区長部落員会議
- 14日 15日 インフルエンザ予防接種(予定)
- 25日 クリスマス
- 28日 御用納め

11月(霜月)

山山を色どつていた紅葉も霜月のたそがれにまばらに影を残している。木立いつしか色あせも。
まだ秋の香りの残つていそうな木ノ葉は一枚一枚散り去り、木々は深い眠りにでもはいつて行くかのように。
しかし、木ノ葉の散り去つたあとの固い皮の中では再び訪ずれる春に新しい木ノ芽が眠つているのです。
それは動けない生きた木々の自然との戦いでもあるのです。
そうです私たちも東洋で初めて開かれた、記念すべきオリンピックの年1964年という歴史の1頁を閉じようとしているのです。

激動する世界の情勢

日本も新しい時代に入った

全国民の視聴が、東京オリンピックにうばわれて、お祭りムードにわきかえつていた十月の、わづか二週間あまりの間に、世界の情勢は激動のな旋回をはじめた。片々たる村報などで取り扱われる事柄ではないが、しかし、この一九六四年十月に相ついで起こつた世界的ビッグ・ニュースは、小さな村報とはいへ、その時点での記録を怠つてはなるまい。
昨年十一月、突如として起こつたケネディ米大統領の暗殺という衝撃的な事件から一年を経ずして、今度は、ソ連の巨頭フルシチョフ首相の、これまた暗殺にもひとしい抜きうち解任である。この米、ソ二大の個性の強い指導者が、国際政局から消えさつたことが、中共の核実験の成功と相まつて世界政情に与える影響は甚大なものがあると思はれる。

米、ソの対立といひ、共存といひ、両体制の世界政治における優位を前提として動いてきた国際政局の中で、各国は経済援助と安全保障を目的に求めてきたが、今年に入つて、フランスのド・ゴールが外交攻勢をとりはじめ、中共承認に踏みきりインドシナ半島に優位を占めてきた。
そして、中、ソ論争に一と太刀あびせるように、中共が世界五番目の核保有国にのし上つてきたのである。世界は、米、ソの優位の足もとが崩れはじめ、国際政局の多元化の傾向が明白になつてきたのである。日本もまた、この新しい情勢に対処させられることになつてきたのである。

このとき、国内では池田路線をひきつぐという佐藤新内閣が生まれ、初めての国会での所信表明の中で、人間尊重の政治を実現するための社会開発を、政治の基調にすることを明らかにした。
今、新内閣によせる国民の功実な期待は、池田政策の踏襲ではなく、新情勢に対応する佐藤路線の確立である。経済だけにヒズミが生じているのではなく、国民生活のあらゆる領域に現われているヒズミ現象の是正こそ、新内閣の使命であり責任であることを知つて貫かねばならぬ。
われわれ国民もまた、政府に対して、国が何をしてくれるかを問うだけでなく、われわれが国に対して何をなすべきかを自分に問う時である。

独善的でなく

自から相扶けてこそ、伸びゆく中津江産業が

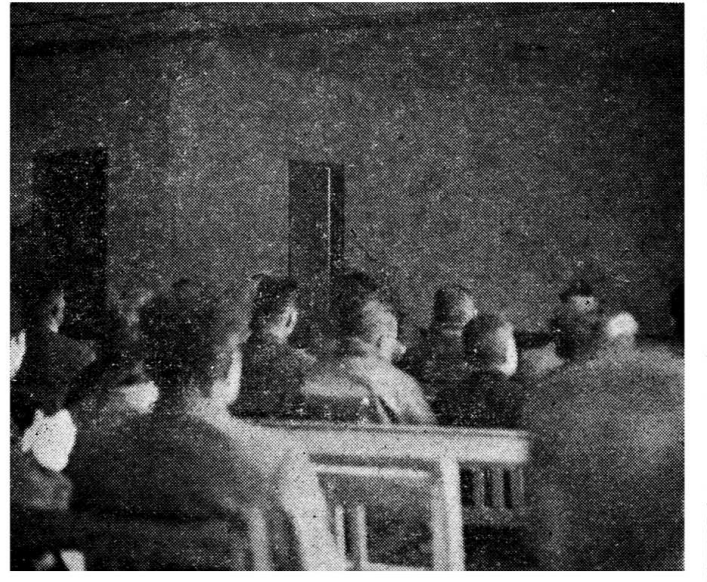
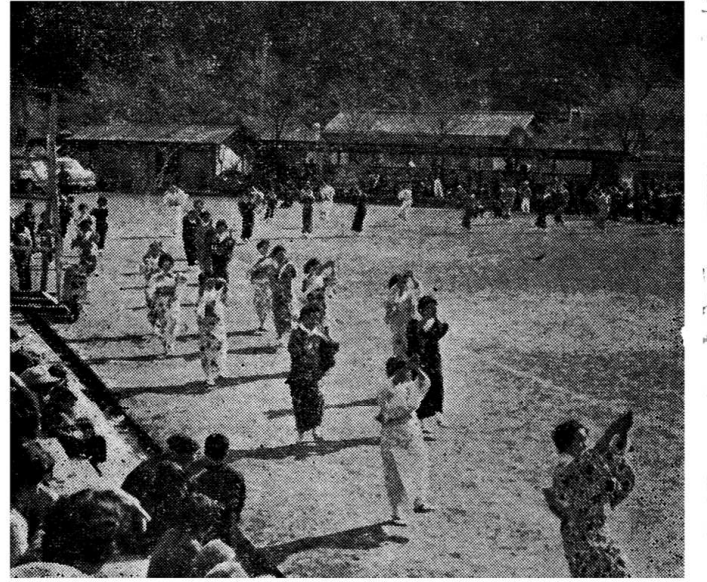
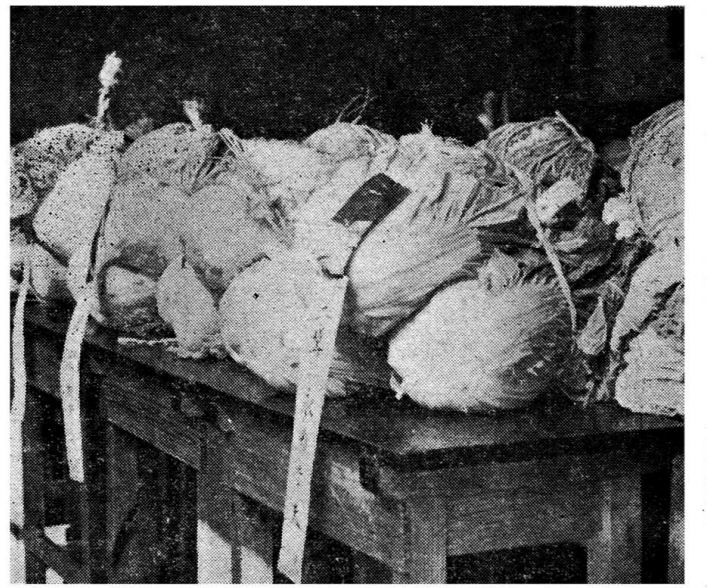
第十四回産業祭終る 生花の陳列もなされる

去る十一月二十二日、同二十三日の二日間に行なわれた産業祭は、晴天の秋空の下中津江中学校で開かれ、盛況のうちに幕を閉じた。本年の産業祭は、例年になく出品点数が少なく、心寂しい感じがしなかつたでもなかつたが、青年団によるのど自慢や、婦人会の舞踊、校区別年代別のリレーなど、産業祭は以外の盛り上がりを見せた。

出品物は点数こそ少なけれ、なかなか優秀なものばかりで、審査員一同も頭を痛めていた。商工会による展示室では、電気製品や化粧品などの陳列され、なかでもステレオから流れる美しい音は、本会場を訪れる人達の心を奪った。この外、生花の陳列は名実ともに、産業祭の色彩を一段と引き立てた。また農研グループによる展示室では、育すう器、虫害の栗の木、婦人グループによる農家の食生活改善などが紹介された。

写真説明

- ① 第二部のそ菜と陳列風景
- ② 中津江村婦人会員によるおどり
- ③ 産業祭表景風景
- ④ 第二部そ菜の審査風景



部門別出品数および等級

部門	品名	出品数	等級			入賞率
			1等	2等	3等	
第一部	み	68	3	8	16	39.7%
	麦	30	1	3	7	36.6
	豆	18	1	3	4	44.4
	豆	15	1	3	2	40.0
	その他の豆	28	—	3	6	32.1
第二部	あ	4	—	—	—	0
	根菜	143	6	17	28	35.6
	球白	40	3	5	9	42.5
	人参	36	2	4	8	38.8
	かぶ	5	—	1	1	40.0
	ごぼう	14	1	2	3	42.8
	里芋	14	1	2	3	42.8
	馬鈴薯	1	—	—	1	100.0
	たまねぎ	10	1	1	2	40.0
	レタ	4	—	1	1	25.0
第三部	ほうれん草	31	2	3	5	32.2
	ねぎ	9	1	1	3	55.5
	ぎん	2	—	—	1	50.5
	山芋	2	—	—	1	50.5
	山芋	2	—	—	1	50.5
第四部	さび	4	1	1	1	75.0
	茶	14	1	2	3	42.8
	こんにやく	3	—	—	1	33.3
	椎茸	3	1	1	1	100.0
	椎茸	48	3	7	11	43.7
	柿	19	1	2	5	27.5
	ゆず	23	2	4	5	47.8
	かぼ	6	—	1	1	33.3
	栗	4	1	—	1	50.0
	ぎん	3	—	—	1	33.3
第五部	干柿	2	—	—	1	50.0
	炭	3	1	1	1	100.0
	木苗	20	2	3	5	50.0
第六部	ヒノ木	2	—	—	1	50.0
	ぬぎ	2	—	—	1	50.0
合計	626	35	79	134	39.9	
参考品	14	—	—	—	—	

部門	第一部門	第二部門	第三部門	第四部門
種類	穀類	そ菜	特産物	林産物

たが、ここで過去の産業祭をふりかえって見ると共に、これからの農業経営を考へて見る必要があるのではなからうか。

第一回は農業祭として、昭和二十六年に会場は本役場で開かれ、当時の農業事情は、生産第一主義であり、この産業祭を契機として、肥料、農業の進歩と共に生産技術は急促に延びて、各農家の農業技術、研究が盛んに行われた。

前述のような農業情勢であつたので、農業祭より広く産業全般とする、いわゆる村民の祭として、産業祭として、回を重ねるごとにその催しも多彩であつた。

しかし第六回(昭和三十一年)第七回(昭和三十一年)頃より、農業と他産業との所得格差が生じて、曲角にきた農業を如何にするかと、ようやく為政者においても考えられ、農山村振興計画の構想によつて、第14回初回は農業の技術研究が盛んに行なわれる

▽ 今年の産業祭も、昨年と同じく出品物に制限が加えられた。そのためか出品数は少なく、心寂しい感じであつた。

出品点数の内最も多かつたのは第二部のそ菜類で、出品数三〇九点、つぎに穀類の一六三点特産物の二二九点林産物の二五五点などである。

▽ 農業者の事情は、農業生産の踊りは、殿方の目を一同に奪つた。そして晩秋の日が、津江の山系に没つて、競争が開かれ、一年間を通じて各種産業の、結果の祭典は盛大のうちに第十回閉幕を閉じた。

◆ 第一部 穀類では例年とあまり大差はなかつたが、麦類の出品が一点もなかつたのには、本回は三十点が出品された。麦作転換など

◆ 第二部 野菜の部では、本村の高冷地野菜、レタスの出品が目だつており、以下結球白菜に優秀なものがあつた。

◆ 第三部 特産物では、独自の香を持つ茶の出品があり、一点ではあるが、機械製による伸茶の出品があつた。椎茸は三点の出品のうち、三点も入賞するすばらしいものであつた。以下ワサビ、かぼす、ゆずにも優れたものが見られた。鶏卵はすぐれたものばかりであつたが

◆ 第四部 林産物では杉苗に優秀な品種(木村自然条件など)が取り入れられていた。

農研グループの展示室では、日ごろ研究を積み重ねた、また経験による栗苗を如何にするかと、ようやく為政者においても考えられ、農山村振興計画の構想によつて、第14回初回は農業の技術研究が盛んに行なわれる

産業祭を省みて

このことは、政府が発表した昭和三十一年の「経済白書」を解説した、全国農業新聞にも「農業所得だけでは生活できない」という見出しで、農業所得を分析し農業所得の増加は、家計支出の増加にははるかに及ばなく、この家計支出の増加を補つて、維持しているのは、農外所得の増加であると結んでいる。

この傾向は全国的であるが、本村の農業経済状態も農家実態調査から分析しても同じことがいえる。

農家経済は、農業所得のみによつては支えきれない条件が深化し、拡大していることを物語っている。

本村の振興基本計画の第一次産業部門でも、こうした問題を取り上げて、農業と林業の併進、養鶏と果樹の選択的拡大を協業化して農業部門の所得増加、他の部門との組み合わせによる農家経済のうるをいをねら

産業祭のうつつり変りも、農政のうつつり変りとともに常に、その年あるいは社会情勢の変化に伴つて、その意義があつた。

しかし農業と他産業の所得格差は、いせんとして開いて、農業の生産所得よりも農外所得の方が多くなり、専業農家より兼業化される率は多くなつてきている。

農業経営を一つの企業として考えた場合に、本村の農業経営の企業化は、生産基盤である。土地は絶対的といつてよいほど拡大の途はないので、企業の経営よりむしろ生活の手段すなわち副業的存在、あるいは財産的存在となり、他産業の経済援助により維持している現状ではなからうか……

このような現象は、農業部門の内だけで解決できる問題ではない。

他産業との組み合わせ、あるいは他の生産部門との組み合わせによつて、農家所得の増大と、格差是正ができるものではないか。

